

500 早法 92 卷 3 号 (2017)

小口彦太教授・略歴

1947年 1 月 8 日 生於長崎県東彼杵郡川棚町

I 学歴

1953年 4 月 長崎県北松浦郡鹿町町立神林小学校入学
1959年 3 月 同校卒業
1959年 4 月 長崎県長崎市海星中学校入学
1962年 3 月 長崎県北松浦郡鹿町町立歌が浦中学校卒業
1962年 4 月 長崎県立佐世保北高等学校入学
1965年 3 月 長崎県立長崎東高等学校卒業
1965年 4 月 早稲田大学第一法学部入学
1969年 3 月 早稲田大学第一法学部卒業 法学士
1969年 4 月 早稲田大学大学院法学研究科修士課程入学
1971年 3 月 早稲田大学大学院修士課程修了 修士 (法学)
1971年 4 月 早稲田大学大学院法学研究科博士課程入学
1974年 3 月 早稲田大学大学院博士課程満期退学
2001年 1 月 早稲田大学より博士 (法学) を取得

II 職歴

1969年 4 月 早稲田大学法学部副手 (1971年 3 月まで)
1971年 4 月 早稲田大学法学部助手 (1974年 3 月まで)
1974年 4 月 早稲田大学法学部専任講師 (1976年 3 月まで)
1976年 4 月 早稲田大学法学部助教授 (1981年 3 月まで)
1981年 4 月 早稲田大学法学部教授 (改組により2004年 9 月より法学学術院、2016年 3 月まで)
1994年 9 月 早稲田大学法学部教務主任 (学生担当、1998年 9 月まで)
1998年11月 早稲田大学教務部長 (2002年11月まで)
2002年11月 早稲田大学理事 (2005年11月まで)
2002年11月 早稲田大学国際部長 (2005年11月まで)
2005年11月 早稲田大学常任理事 (2006年11月まで)
2007年 4 月 早稲田大学系属早稲田渋谷シンガポール高校長 (2016年 3 月まで)
2010年 4 月 早稲田大学アジア研究機構長 (2015年 3 月まで)
2016年 4 月 江戸川大学学長 (～現在)

学外兼任講師

立教大学法学部非常勤講師（1974年～現在）
東北大学法学部・法学研究科非常勤講師（1995年～2009年）
一橋大学法科大学院非常勤講師（2009年～2010年）

在外研究ほか

ハーバードロースクール東アジア法研究プログラム訪問学者（1981年～1982年）
中国人民大学名誉客座教授（1998年）
上海国際商務法律研究会公司法専門委員会高級顧問（2001年）
内閣府日本・中国青年親善交流事業青年中国派遣団団長（2008年）

小口彦太教授・主要業績目録

I 著書

i 単著

1. 『法学講義教材』成文堂、1993年
2. 『中国法講義教材』成文堂、1997年
3. 『現代中国の裁判と法』成文堂、2003年
4. 『伝統中国の法制度』成文堂、2012年

ii 共編著

1. 『中村吉三郎教授還暦祝賀論集』早稲田大学法学会、1974年
2. 『権威的秩序と国家』東京大学出版会、1987年
3. 島田正郎博士頌寿記念論集『東洋法史の探究』汲古書院、1987年
4. 『現代中国の政治世界』岩波書店、1989年
5. 『アジアの社会主義法』法律文化社、1989年
6. 『入門中国法』三省堂、1991年
7. 『中国礼法と日本律令制』東方書店、1992年
8. 『裁判と法の歴史的展開』敬文堂、1992年
9. 『法における近代と現代』日本評論社、1993年
10. 『中国ビジネスの法と実際』（監修、編著）日本評論社、1994年
11. 『日中文化交流史叢書 2 法律制度』大修館書店、1997年
12. 『唐令拾遺補』東京大学出版会、1997年
13. 『法学の根底にあるもの』有斐閣、1997年
14. 『中国会社法入門』日本経済新聞社、1998年
15. 『中国の経済発展と法』（編著）早稲田大学比較法研究所、1998年
16. 『岩波現代中国事典』岩波書店、1999年
17. 奥島孝康教授還暦記念『比較会社法研究』成文堂、1999年
18. 『日中律令制の諸相』東方書店、2002年
19. 『中国の政治一開かれた社会主義への道程』（曾憲義と共編）早稲田大学出版部、2002年
20. 『現代中国法』成文堂、2004年（初版）、2012年（第2版）
21. 『徹底図解 中国がわかる本』（監修）扶桑社、2008年
22. 『日中刑法論壇』早稲田大学出版部、2009年
23. 『日中民法論壇』早稲田大学出版部、2010年
24. 奥島孝康先生古稀記念論文集『現代企業法学の理論と動態（第1巻下篇）』成文堂、

2011年

25. 『最新 中国ビジネス法の理論と実際』 弘文堂、2011年
26. 『同時にわかる！ 日本・中国・朝鮮の歴史』（監修）PHP 研究所、2012年
27. 『入門中国法』 弘文堂、2013年
28. 『中国契約法の研究―日中民法学の対話』 成文堂、2017年3月出版予定
29. 『中日比較法講義』（中国）法律出版社、2017年出版予定

iii 翻訳書

〔中国法学全集シリーズ（全9巻）〕

総監修：西原春夫、高銘暄、編集委員：小口彦太、趙秉志

1. 胡錦光＝韓大元共著、小口彦太＝大内毅生＝野沢秀樹共訳『中国憲法の理論と実際』 成文堂、1996年
2. 江偉＝李浩＝王強義共著、小口彦太監訳、齊藤明美＝佐藤七重共訳『中国民事訴訟法の理論と実際』 成文堂、1997年
3. 鄭成思著、國谷知史訳『中国知的所有権法の理論と実際』 成文堂、1998年
4. 皮純協＝馮軍＝呉徳星共著、小口彦太＝周作彩＝加藤千代共訳『中国行政法の理論と実際』 成文堂、1998年
5. 余勁松著、野沢秀樹訳『中国国際経済法の理論と実際』 成文堂、1999年
6. 史際春著、齊藤明美＝佐藤七重共訳『中国経済法の理論と実際』 成文堂、2000年
7. 楊立新著、小口彦太＝大内哲也＝但見亮共訳『中国民法の理論と実際』 成文堂、2001年
8. 程榮斌＝王新清＝甄貞共著、土岐茂＝野沢秀樹共訳『中国刑事訴訟法の理論と実際』 成文堂、2003年
9. 周国均著、野沢秀樹訳『中国弁護士制度と弁護士実務』 成文堂、2004年

II 論文

i 単著

1. 「北魏均田農民の土地「所有権」についての一試論」『早稲田法学会誌』第23巻、1973年
2. 「李觀の思想の一側面」『早稲田法学』第50巻第1・2合併号、1974年
3. 「中国土地所有権法史序説：均田制研究のための予備的作業」『比較法学』第9巻第1号、1974年
4. 「吐魯番発見唐代貸貸借・消費貸借文書について」『比較法学』第10巻第1号、1975年
5. 「伝統中国法の解体過程に関する一考察（一）（二）：同治期を中心として」『比較法学』第12巻第1号、1977年、『比較法学』第12巻第2号、1978年
6. 「中国古代における法とその担い手達：『史記』列伝を素材として」『歴史評論』331

号、1977年

7. 「中国法研究における末弘博士の今日的意義」『早稲田法学』第55巻第2号、1979年
8. 「『中国農村慣行調査』をとおしてみた華北農民の規範意識像」『比較法学』第14巻第2号、1980年
9. 「中国前近代の法と国制に関する覚書」『歴史学研究』483号、1980年
10. 「清朝時代の裁判における成案の役割について：刑案匯覽をもとにして」『早稲田法学』第57巻第3号（杉山晴康教授還暦祝賀論集）、1982年
11. 「A Sketch on the Administration of Justice in Imperial China」『早稲田法学』第58巻第3号（早稲田大学法学部創立百周年論文集）、1983年
12. 「清代中国の刑事裁判における成案の法源性」『東洋史研究』第45巻第2号、1986年
13. 「Some Observations about “Judicial Independence” in Post-Mao China」, Boston College Third World Law Journal, Vol. 7, Issue 2 (Spring 1987)
14. 「中国における『法治』の現状」『法律時報』第62巻第12号、1990年
15. 「中国刑事司法の40年」『比較法研究』52号、1990年
16. 「立法形式及び法適用面からみた現代中国刑法と伝統法との比較」『比較法研究』56号、1995年
17. 「中国の立法観念について：刑法61条累犯規定の関連立法をめぐって」『早稲田法学』第71巻第4号、1996年
18. 「中国民法通則132条公平責任原則の系譜」『東方』198号、1997年
19. 「日本、中国、香港侵權行為法比較」『法学家』（中国人民大学発行）1997年第5期
20. 「中国における刑法改正について：罪刑法定原則の採用を中心にして」『比較法研究』60号、1998年
21. 「日中侵權行為法的比較」『法制与社会発展』（中国・吉林大学発行）1999年第3期
22. 「中国における肖像権侵害をめぐる一訴訟：映画『秋菊の物語』撮影事件をもとにして」『早稲田法学』第75巻第1号、1999年
23. 「5大学間単位互換制度の今後の展望」『第7回大学教育研究フォーラム』、2002年
24. 「日本統治下の『満州国』の法」『韓国法史学会国際学術大会』、2002年
25. 「中国民法における人格権の位置づけについて」『中国民法典草案国際検討会（雲南大学）』、2003年
26. 「盗み撮り事件に憲法論議は果たして必要か」『東方』274号、2003年
27. 「中国民法典編纂をめぐる論争の一齣」『L&T』32号、2006年
28. 「中国の罪刑法定原則についての一、二の考察」『早稲田法学』第82巻第3号、2007年
29. 「中国で裁判官が憲法を適用するということについて：斉玉荅事件を手掛かりにして」『比較法学』第41巻第1号、2007年
30. 「ルビコンを渡った中国法：物権法制定をめぐって」『比較法学』第42巻第1号、2008年

31. 「中国刑法上の犯罪概念再論」『早稲田法学』第85巻第3号、2010年
32. 「中国における改革開放政策のもとでの私有財産権の法的位置づけの変遷（第六回[早稲田大学]総合研究機構研究成果報告会〈中国における経済発展・法整備と日系企業〉）」『プロジェクト研究』第6巻、2010年
33. 「中国契約法における危険負担、違約責任及び契約解除の関係について」『比較法学』第44巻第2号、2010年
34. 「市場経済化を媒介する中国法の反形式的傾向（特集 変化のなかの中国法）」『社会科学研究』第62巻第5・6合併号、2011年
35. 「中国刑法における犯罪概念と犯罪構成要件理論（特集 中国法の諸相）」『中国21』第35巻、2011年
36. 「中国の特色を有する民事判決：違約責任も不法行為責任もないのに賠償を命ぜられた事例[広東省高級人民法院2001.11.26判決]」『早稲田法学』第87巻第2号（早川弘道教授追悼号）、2012年
37. 「劉涌事件をめぐる：中国刑事手続の一齣」『早稲田法学』第87巻第3号（木棚照一教授 島田征夫教授 中村紘一教授 古稀祝賀退職記念論集）、2012年
38. 「中国における債権者代位権の基礎的研究」『早稲田法学』第89巻第1号、2013年
39. 「中国における事情変更原則の基礎的研究」『早稲田法学』第89巻第3号（曾根威彦教授 田口守一教授 田山輝明教授 梅善夫教授 堀龍兒教授 古稀祝賀退職記念論集）、2014年
40. 「中国における債権者取消権の基礎的研究」『比較法学』第47巻第3号、2014年
41. 「中国における同時・先履行の抗弁権の基礎的研究」『比較法学』第48巻第1号、2014年
42. 「中国契約法における不安抗弁権小論」『比較法学』第48巻第2号、2014年
43. 「中国契約法における危険負担の基礎的研究」『比較法学』第48巻第3号、2015年
44. 「中国契約法における債権譲渡の基礎的研究」『早稲田法学』第90巻第2号、2015年
45. 「中国法における契約解除の基礎的研究」『比較法学』第49巻第1号、2015年

ii 共著

1. 小口彦太＝瀬川信久＝韓世遠＝王成「中国契約法における契約履行中の抗弁権（一）（二）」『早稲田法学』第88巻第4号、『早稲田法学』第89巻第1号、2013年
2. 小口彦太＝瀬川信久＝松岡久和＝韓世遠＝王成「中国契約法における債権者代位権」『早稲田法学』第89巻第2号、2014年
3. 小口彦太＝瀬川信久＝松岡久和＝渡辺達徳＝韓世遠＝王成「中国契約法における債権者取消権」『早稲田法学』第89巻第4号、2014年
4. 文元春＝小口彦太＝瀬川信久＝長友昭＝王成＝張愛軍＝元培氷「中国不法行為法における公平責任研究」『早稲田法学』第92巻第3号、2017年3月出版予定

Ⅲ その他

i 翻訳

1. ジェーロム・アラン・コーエン著、小口彦太＝國谷知史共訳「中国共産党と『裁判の独立』：一九四九年～一九五九年」『早稲田法学』第59巻第1・2・3合併号、1984年
2. 武樹臣著、小口彦太＝斉藤明美共訳「〈講演〉中国の法文化：中国の『法統』と『法体』についての史的考察」『比較法学』第25巻第1号、1992年
3. ヒュー T. スコーギン著、小口彦太＝喜多三佳共訳「天と人の間：漢代の契約と国家（1）（2）（3）（完）」『早稲田法学』第68巻第1・2合併号、『早稲田法学』第69巻第1号、1993年、『早稲田法学』第69巻第3号、1994年、『早稲田法学』第71巻第1号、1995年
4. 董璠興著「〈講演〉中国の立法事情」『比較法学』第27巻第2号、1994年
5. 梁慧星著、小口彦太＝陶雲明共訳「〈講演〉中国の製造物責任法」『比較法学』第29巻第1号、1995年
6. 梁慧星著、小口彦太＝加藤千代＝佐藤七重＝首藤三千代共訳「〈講演〉中国の道路交通事故賠償法」『比較法学』第29巻第1号、1995年
7. 王利明著「〈講演〉中国の統一的契約法制定をめぐる諸問題」『比較法学』第29巻第2号、1996年
8. 楊立新著、小口彦太＝坂口一成共訳「〈講演〉中国不法行為法の現状およびその主要な学術的観点」『比較法学』第34巻第1号、2000年
9. 姚輝著、小口彦太＝大内哲也共訳「〈講演〉中国人格権法の発展および現状」『比較法学』第34巻第1号、2000年
10. 小口彦太＝長友昭共訳「中華人民共和国物権法」『早稲田法学』第82巻第4号、2007年
11. 張広良著、小口彦太＝胡光輝共訳「中国における知的財産権侵害の民事救済（1）～（12）」『早稲田法学』第83巻第1号～第86巻第4号、2007年～2011年
12. 馮玉軍著、小口彦太監訳、孔曉鑫＝金森恵那共訳「西洋法の伝来とその学問的自覚：中国における外国法移植研究の横断的考察」水林彪編著『東アジア法研究の現状と将来：伝統的法文化と近代法の継受』国際書院、2009年
13. 姚輝著、小口彦太監訳、文元春訳「中国の伝統的法文化と欧米（日本）民法の影響：中日両国の民法近代化の比較研究の視角から」水林彪編著『東アジア法研究の現状と将来：伝統的法文化と近代法の継受』国際書院、2009年
14. 韓大元著、小口彦太＝洪英共訳「中国における憲法と民法の関係：『物権法』の制定過程における学術論争を中心に」『比較法学』第44巻第2号、2010年
15. 周江洪著「危険負担ルールと契約解除」『早稲田法学』第86巻第3号、2011年
16. 周長軍著、小口彦太＝但見亮＝長友昭＝文元春共訳「中国刑事訴訟法の改正および

その特徴」『早稲田法学』第87巻第4号、2012年

17. 王成著、小口彦太＝徐慧共訳「最高法院司法解釈の効力に関する研究」『比較法学』第48巻第1号、2014年

ii 書評、資料、その他

1. 「書評：堀敏一著『均田制の研究—中国古代国家の土地政策と土地所有制』」『法制史研究』26号、1976年
2. 「書評：堀敏一著『均田制の研究—中国古代国家の土地政策と土地所有制』」『駿台史學』第38号、1976年
3. 「書評：尾形勇著『中国古代の「家」と国家—皇帝支配下の秩序構造』」『法制史研究』30号、1982年
4. 「書評：滋賀秀三著『清代中国の法と裁判』」『法制史研究』35号、1985年
5. 「書評：伊藤洋二著『清代における秋審の實態』」『法制史研究』38号、1988年
6. 「中国の動向（含 コメント）」[シンポジウム：社会主義はいま]『法の科学』18号、1990年
7. 「資料：中国刑法典修正関係法規・司法解釈文書集成（総則編）」『早稲田法学』第69巻第1号、1993年
8. 「資料：中国刑法典修正関係法規・司法解釈文書集成（各則編1）」『早稲田法学』第69巻第3号、1994年
9. 「資料：中国刑法典修正関係法規・司法解釈文書集成（各則編2）」『早稲田法学』第71巻第3号、1996年
10. 「座談会：『早稲田法学の峰々』（1）島田信義先生を囲んで」『早稲田法学』第72巻第2号、1997年
11. 「資料：中華人民共和国新・旧刑法典対照一覧（1）」『早稲田法学』第73巻第1号、1997年
12. 「座談会：『早稲田法学の峰々』（3）中村英郎名誉教授を囲んで」『早稲田法学』第73巻第2号、1997年
13. 「〈事例紹介〉他大学単位互換協定の今後の展望：f-Campus 事務局開設にあたって」『大学と学生』第435号、2001年
14. 「早稲田大学・新しい教養教育への挑戦」『大学時報』第281号、2001年
15. 「[早稲田大学] 大学史資料センターの役割と今後の活動」『早稲田大学史記要』第35巻、2003年
16. 「〈事例紹介〉アジア太平洋地域における『知の共創』」『留学交流』第16巻第1号、2004年
17. 「アジア太平洋地域における知の共創：早稲田大学の国際化への取り組み」『学術月報』第58巻第1号、2005年
18. 「座談会：国際化時代に大学は何をできるか」『三田評論』1083号、2005年

19. 「早稲田大学の国際戦略」『IDE』482号、2006年
20. 長友昭・インタビュー「アジア研究最前線 小口彦太教授 法研究から中国の今に迫る 法制史から現代中国法まで」『ワセダアジアレビュー』1号、2007年
21. 「東アジア共同体の形成と大学の役割：早稲田大学の取り組みを通して」『ワセダアジアレビュー』3号、2007年
22. 「座談会：それぞれの体験から中国の大学とどう付き合うか（特集 本格化する日中大学交流）」『カレッジマネジメント』第25巻第2号、2007年
23. 「素晴らしき先生たち」『せこらせらたん』（早稲田大学渋谷シンガポール高校報紙）第49号、2007年7月20日
24. 「書を読み世界へ出ていこう」同50号、2007年12月19日
25. 「生徒諸君“汝のザッへに仕えよ”」同51号、2008年3月20日
26. 「三つの「力」—体力と集中力、そして努力—」同52号、2008年7月21日
27. 「自調自考を考える—授業を参観して—」同53号、2008年12月19日
28. 「書評：宮川基著『満洲国刑法の研究』」『法制史研究』58号、2008年
29. 「書評：星野英一・梁慧星監修／田中信行・渠濤編集、商事法務、『中国物権法を考える』」『中国研究月報』第63巻第5号、2009年
30. 「自調自考を考える—「修身齊家治国平天下」はかび臭い議論か—」『せこらせらたん』（早稲田大学渋谷シンガポール高校報紙）第54号、2009年3月17日
31. 「「教育研究」か、それとも「研究教育」か、はたまた「教育即是研究」か」同55号、2009年3月17日
32. 「「功過格」と「幸禍格」」同56号、2009年7月23日
33. 「代価があれば非常に保護し、その他には保護が薄いというような風の主義は吾吾は考えて居りませぬ考」同57号、2010年3月17日
34. 「鎮魂」同58号、2010年7月22日
35. 「何故法律学はノーベル賞の対象にならないのか」同58号、2010年12月22日
36. 「ところ変われば品変わる一日中相互理解のむずかしさ」（機構長コラム）『ワセダアジアレビュー』8号、2010年
37. 「パネルディスカッション：中国における経済発展・法整備と日系企業（第六回[早稲田大学]総合研究機構研究成果報告会〈中国における経済発展・法整備と日系企業〉）」『プロジェクト研究』第6巻、2010年
38. 「憐れ劉涌は刑場の露と消えた」（機構長コラム）『ワセダアジアレビュー』9号、2011年
39. 「現代アジアの光と影」同10号、2011年
40. 「懐疑の精神を養おう」『せこらせらたん』（早稲田大学渋谷シンガポール高校報紙）第60号、2011年3月17日
41. 「この国のかたち」同61号、2011年7月21日
42. 「無題」同62号、2011年12月21日

43. 「自己の不覚を恥ず」 同63号、2012年 3 月17日
44. 「アジア時代の到来」 同64号、2012年 7 月20日
45. 「郵便番号とジップコード」 同65号、2012年12月21日
46. 「姿かたちは見えねども」(機構長コラム)『ワセダアジアレビュー』 11号、2012年
47. 「毛沢東支配のパラドックス」 同12号、2012年
48. 「法律認識のギャップはかくも恐ろしい」 同13号、2013年
49. 「村井吉敬先生、さようなら」 同14号、2013年
50. 「二〇一二年問題の解は一八六八年によっても一八四〇年以前によっても得られない」『せこらせらたん』(早稲田大学渋谷シンガポール高校報紙) 第66号、2013年 3 月17日
51. 評論「船舶差押え事件は異常ではない—中国における法治の現状」読売新聞ネット版2014年 6 月 2 日「オピニオン・国際」http://www.yomiuri.co.jp/adv/wol/opinion/international_140602.html
52. 「君たちに望むこと」『せこらせらたん』(早稲田大学渋谷シンガポール高校報紙) 第67号、2013年 7 月20日
53. 「中国憲法の話兼私のジレンマ」 同68号、2013年12月21日
54. 「諸君とともに考えてみたいこと」 同69号、2014年 3 月17日
55. 「君達は歴史上の人物として誰が好きですか」 同70号、2014年 7 月19日
56. 「ねじれのねじれ」 同71号、2014年12月20日
57. 「戦争責任と我妻栄先生」(機構長コラム)『ワセダアジアレビュー』 15号、2014年
58. 「“先進的” 中国社会から立憲主義が生まれてくるか」 同16号、2014年
59. 「こんな筈ではなかった」 同17号、2015年
60. 「正解は何ですか」せこらせらたん』(早稲田大学渋谷シンガポール高校報紙) 第72号、2015年 3 月17日
61. 「知識偏重よりもっと困るのは知識偏少」 同73号、2015年 7 月18日
62. 「所変われば 品＝法 変わる—紙上での模擬講義—」 同74号、2015年12月19日
63. 「断片的章句」 同75号、2016年 3 月17日